

自	動	車	整	備	士
1	級	小	型	筆	記

問題と解説 下巻



第1章
電気回路
上巻 4ページ

第2章
エンジン
上巻 42ページ

第3章
エンジン故障診断
上巻 214ページ

第4章
シャシ
2ページ

第5章
シャシ故障診断
178ページ

第6章
環境・安全
242ページ

第7章
法令
293ページ

1 電子制御式AT

1. センサ信号の異常検知……………4
2. 機械式油圧センサ……………6
3. 半導体式油圧センサ……………8
4. プランジャ式ソレノイド・バルブ（プラス駆動）
……………11
5. ステッピング・モータ……………13
6. ECUの制御……………14
7. ライン・プレッシャ制御……………16
8. フェイルセーフ機能……………18

2 無段変速機（CVT）

1. 構造と作動……………25
2. 電子制御機能……………35

3 電動式パワー・ステアリング（EPS）

1. モード切り替えスイッチ……………38
2. トルク・センサ……………45
3. センサの異常検知……………52
4. DC ブラシ・モータ……………55
5. DC ブラシレス・モータ……………58
6. EPS制御……………60

4 ABS：アンチロック・ブレーキ・システム

1. 車輪速センサ（パルス・ジェネレータ式）
……………64
2. 車輪速センサ（磁気抵抗素子式）……………67
3. FSR 駆動回路／PMR 駆動回路……………71
4. モジュレータ・バルブ駆動回路……………77
5. ABS制御……………81

5 車両安定制御装置

1. 構造・機能 …………… 83
2. プリチャージ機能付き真空式制動倍力装置
…………… 87
3. VSCSの概要と構成部品 …………… 88
4. VSCSの作動 …………… 92

6 オート・エアコン

1. 論理信号センサ …………… 97
2. リニア信号センサ …………… 101
3. リサーキュレーション・アクチュエータ … 106
4. エア・ミックス・アクチュエータ …… 110
5. ブロア・モータ（リニア駆動） …… 113
6. ECUによる制御 …………… 116

7 SRSエア・バッグ

1. 構造・作動 …………… 121
2. 整備上の注意事項等 …………… 130

8 振動・騒音

1. 振動の表し方 …………… 133
2. 音圧レベル …………… 138
3. ダンパ …………… 142
4. 騒音計 …………… 145
5. エンジン関係 …………… 146
6. トランスミッション …………… 150
7. プロペラ・シャフト／ドライブ・シャフト
…………… 152
8. サスペンション …………… 157
9. 振動と騒音現象のまとめ …………… 159
10. ブレーキ・ノイズ …………… 166
11. タイヤ …………… 168

第4章 4 シヤシ

1. 電子制御式AT

1 センサ信号の異常検知

【1】前進4段のロックアップ機構付き電子制御式ATに用いられるセンサ及びセンサ信号の異常検知に関する記述として、**不適切なものは次のうちどれか。**

[R3.3/H27.3]

1. ハードウェアによる異常検知では、センサ回路（電源から入力回路に入るまで）の回路構成の仕組みとプログラムのマップ・データを活用して、センサの規定値から外れる信号電圧が入力回路に入力したとき、又は信号電圧なしの場合に異常検知が行われ、主な検知対象は、センサ信号線の断線及び短絡である。
2. ソフトウェアによる異常検知では、ハードウェアでは検知できないものが対象となり、信号電圧が正常値の範囲であっても、信号電圧の変化値が車両の運転上あり得ないもの、又は他のセンサ信号との類推比較で車両の運転上あり得ないものを検知対象にしている。
3. ポテンショ・メータ式スロットル・ポジション・センサの内部に取り付けられているスロットル・バルブ・スイッチには、アイドル接点とフル接点の2つの接点があり、その接点からの信号電圧は、スロットル・ポジション・センサに異常が発生したときに使用される。
4. リニア信号センサに分類される機械式油圧センサは、5V安定化電源を利用して、オイル・ポンプの吐出圧、ライン・プレッシャ、パイロット・プレッシャなどの圧力変化に応じたセンサ信号電圧を出力している。

正解 & ポイント解説

【1】正解…4

3. 「8. フェイルセーフ機能」⇒ ■スロットル・ポジション・センサ（P22）参照。
4. リニア信号センサに分類される油圧センサは、半導体式が用いられており、機械式は使われていない。また、油圧センサが検出しているのはライン・プレッシャやパイロット・プレッシャである。

■ センサの異常検知 [1シI1章]

- ① センサ信号の異常検知は、ハードウェア（回路の構成の仕組みと一部マイコンのプログラムを活用）で行われる検知方法と、ソフトウェア（ハードウェアで検知はできない領域をプログラムにより実施）で行われる検知方法があります。
- ② ハードウェアによる異常検知は、センサ回路（電源から入力回路に入るまで）の回路構成の仕組みとプログラムのマップ・データを活用して、センサの規定値から外れる信号電圧が入力回路に入力したとき、または信号電圧なしの場合に異常検知が行われます。主な検知対象は、センサ信号線の断線及び短絡です。
- ③ 異常検知の仕組みの設定は、回路構成上の制約があり、限定的な異常検知になります。従って、センサ信号に異常が発生しても、検知不可能な部分の信号電圧であれば、マイコンは異常を検知をしないため、フェイルセーフ制御の運転に移行できず、装置の機能が低下したまま、運転が継続されることになります。
- ④ ソフトウェアによる異常検知は、ハードウェアでは検知できないものが対象となり、信号電圧が正常値の範囲にあっても、信号電圧の変化値が車両の運転上あり得ないもの、または他のセンサ信号との類推比較で車両の運転上あり得ないものを検知対象にしています。
- ⑤ これらのソフトウェアによる異常検知は、より複雑・精密化した高度制御装置の異常検知技術（多数の閾値を設定して情報を検出）に活用されています。

2

機械式油圧センサ

【1】前進4段のロックアップ機構付き電子制御式ATのライン・プレッシャ・センサなどに用いられている図の機械式油圧センサ回路の異常検知範囲を示したものとして、適切なものは次のうちどれか。[H31.3]

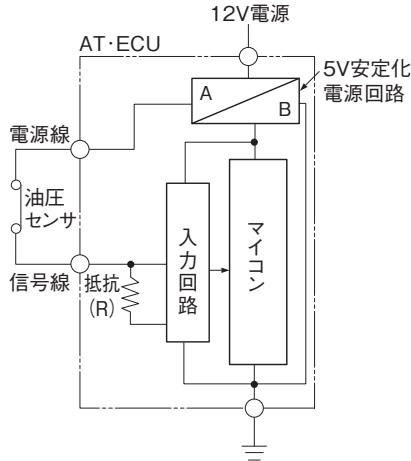
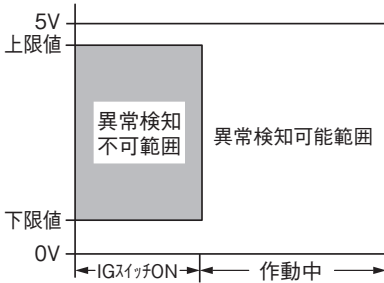
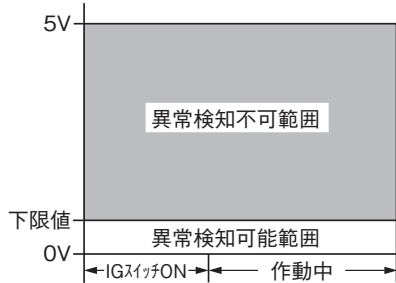


図 機械式油圧センサの回路構成

□ 1.



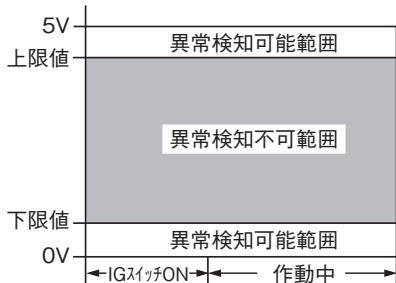
2.



3.



4.



正解 & ポイント解説

【1】正解…3

機械式油圧センサの接点が閉じているときは、入力回路に5V信号が入力される。油圧が高くなり、センサの接点が開くと、入力回路には0V信号が入力される。この5Vと0Vは、センサや配線の異常時にも発生するため、マイコンはそれらの区別ができず、常に異常検知できない。

一般解説

■異常検知の範囲 [1シ11章]

- ①機械式油圧センサのような常閉接点スイッチでは、断線・短絡時に入力回路に入力される信号電圧値と、正常時のセンサがつくる信号電圧に同じ電圧値が混在します。
- ②このため、マイコンは全ての状態で異常検知することができません。
- ③同じ論理信号センサであるスロットル・バルブ・スイッチ、変速パターン・スイッチ、オーバドライブ・スイッチについても同様に、マイコンは全ての状態で異常検知できません。

1 電子制御式AT

- 1. スロットル・ポジション・センサ …… 179
- 2. 変速パターン選択スイッチ …… 180
- 3. オーバドライブ・スイッチ …… 182
- 4. 油圧センサ …… 184
- 5. シフト・ポジション・センサ …… 185
- 6. 再現手法 …… 187
- 7. 車載故障診断装置に表示されない不具合 …… 188

2 EPS

- 1. 故障診断全般 …… 193
- 2. モード・スイッチ …… 198
- 3. 車載故障診断装置に表示されない不具合 …… 203

3 ABS

- 1. コード別の故障診断 …… 205
- 2. モータOFF・ON故障診断 …… 211
- 3. ポンプ・モータ回路の故障診断 …… 215
- 4. 車載故障診断装置に表示されない不具合 …… 216

4 オート・エアコン

- 1. 故障診断前の一般知識 …… 218
- 2. エア・ミックス・モータ系 …… 220
- 3. モード・モータ系 …… 223
- 4. 内外気切り替えモータ系 …… 229

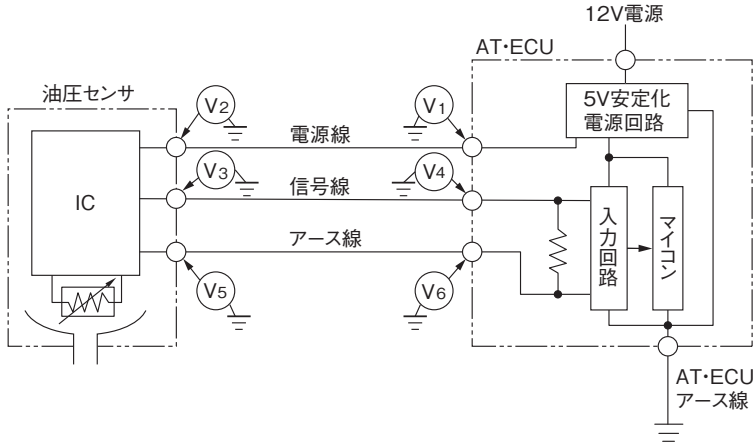
5 振動・騒音

- 1. 故障診断方法 …… 231
- 2. 不具合現象とその原因 [1] …… 233
- 3. 不具合現象とその原因 [2] …… 236

4

油圧センサ

【1】AT警告灯が点灯し、油圧センサシステムのダイアグノーシス・コードを表示している場合の、図に示す油圧センサ回路のエンジン回転中の故障診断に関する記述として、**不適切なものは次のうちどれか。** [H27.3]

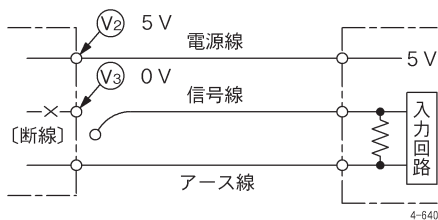


- ☐ 1. V₁とV₂に電圧がない場合は、AT・ECU内部異常及び電源線の短絡(地絡)が考えられる。
2. V₃とV₄が正常電圧にも関わらず、AT・ECUが油圧センサシステムのダイアグノーシス・コードを出力する場合、AT・ECU内部異常は考えられない。
3. V₂に電圧があるにも関わらずV₃に電圧がないときに、V₃の端子を外してもV₃のセンサ側端子に電圧がない場合、油圧センサの異常が考えられるが、AT・ECUアース線の断線は考えられない。
4. V₅に電圧があり、V₆に電圧がない場合、アース線の断線は考えられるが、電源線の断線は考えられない。

正解 & ポイント解説

【1】正解…2

2. この場合、AT・ECUの内部(異常検出回路など)の異常が考えられる。
3. この場合、単純に油圧センサ内の信号線系統の断線などが考えられる。また、AT・ECUアース線が断線していると、AT・ECUは正常に作動しなくなる。



【油圧センサ内の信号線系統の断線】

4. 電源線が断線していると、V5とV6には電圧がない。

5 シフト・ポジション・センサ

【1】AT警告灯が点灯した自動車において、ダイアグノーシス・コードを確認したところ、「シフト・ポジション・センサ系統の異常」を表示した。図に示すPレンジ・インジケータ・ランプ回路の点検に関する記述として、適切なものは次のうちどれか。なお、図は、参考としてPレンジ以外にシフトした状態を示している。[R2.3]

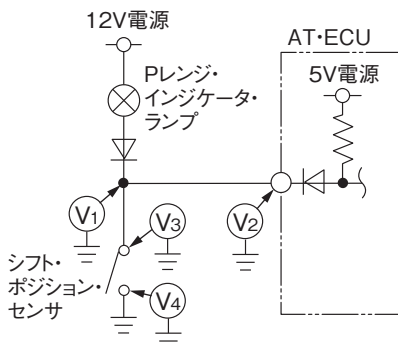


図 Pレンジ・インジケータ・ランプの回路構成

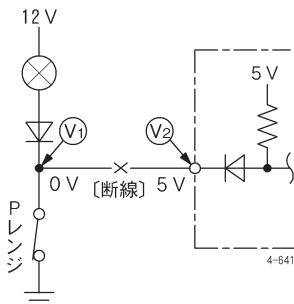
- ☑ 1. シフト・レバーをPレンジにシフトして、Pレンジ・インジケータ・ランプが点灯しているときに、V₂に5Vの電圧があり、V₁に電圧がない場合は、AT・ECUの不良が考えられるが、V₁からV₂間の断線は考えられない。
2. シフト・レバーをPレンジ以外にシフトしているにも関わらず、Pレンジ・インジケータ・ランプが点灯しているときに、V₁、V₂、V₃に12Vの電圧がない場合は、V₁からV₂間の短絡(地絡)、V₁からV₃間の短絡(地絡)が考えられるが、AT・ECUの不良は考えられない。

3. シフト・レバーをPレンジにシフトしているにも関わらず、Pレンジ・インジケータ・ランプが点灯しないときに、 V_1 、 V_2 、 V_3 に12Vの電圧があり、 V_4 に12Vの電圧がない場合は、 V_4 からアース間の断線が考えられるが、シフト・ポジション・センサの不良は考えられない。
4. シフト・レバーをPレンジ以外にシフトして、Pレンジ・インジケータ・ランプが点灯しないときに、 V_2 、 V_3 に12Vの電圧があり、 V_2 の端子を外したAT・ECU側端子に5Vの電圧がない場合は、AT・ECUの不良が考えられるが、 V_1 から V_2 間の断線は考えられない。

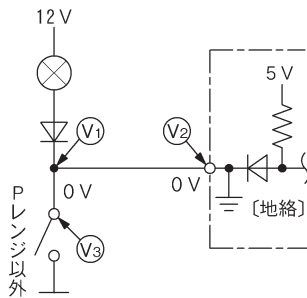
正解 & ポイント解説

【1】正解…4

1. この場合、 V_1 から V_2 間の断線が考えられる。AT・ECUの不良は考えられない。

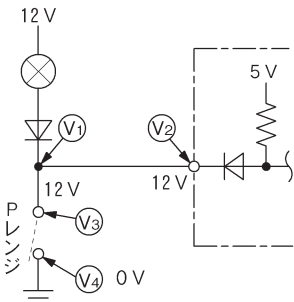


【 V_1 と V_2 間の断線】

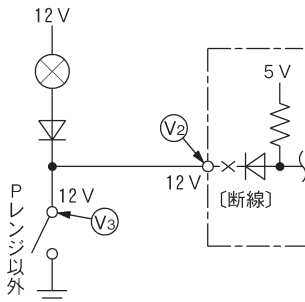


【ECU内部の信号線系統の地絡】

2. この場合、 V_1 から V_2 間の地絡、 V_1 から V_3 間の地絡、AT・ECUの不良（内部の信号線系統の地絡）が考えられる。
3. この場合、シフト・ポジション・センサの不良（接点が閉じない）が考えられる。 V_4 に12Vがないことから、 V_4 からアース間の断線は考えられない。



【スイッチの接点が閉じない】



【ECU内部の信号線系統の断線】

4. この場合、AT・ECUの不良（内部の信号線系統の断線）が考えられる。 V_1 から V_2 間の断線は考えられない。

環境
・
安全

1 環境保全

1. 環境問題…………… 243
2. 資源の有効利用…………… 246
3. 産業廃棄物処理の影響と対応…………… 251
4. 代替フロン…………… 253
5. 自動車リサイクル法…………… 255
6. 整備事業場における環境保全…………… 261

2 安全管理

1. 災害のあらまし／災害防止…………… 264
2. ハンマ…………… 271
3. スパナ…………… 272
4. ベンチ・グラインダ…………… 272
5. インパクト・レンチ…………… 274
6. 卓上ボール盤及び電気ドリル…………… 274
7. ガレージ・ジャッキ／
リフト（ツイン・ポスト形）…………… 275
8. チェーン・ブロック…………… 276
9. 充電器の取り扱い…………… 277
10. 配電盤の取り扱い…………… 278
11. 燃焼に必要な条件…………… 278
12. 気体・液体・固体の燃焼…………… 279
13. 消火器…………… 281
14. 危険物…………… 283
15. 応急手当についての心得…………… 289
16. 指定部品…………… 291

1. 環境保全

1 環境問題

【1】自動車にかかわる環境問題と環境保全への取り組みに関する記述として、不適切なものは次のうちどれか。[H29.3改]

- 1. 使用済自動車に対して、リサイクルの推進、リサイクルしやすい車の開発、廃棄物の量の削減等が行われている。オゾン層の破壊の要因である特定フロンR12（CFC-12）に対しては、使用済自動車解体時やカー・エアコン修理時のフロン大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）等が行われている。
- 2. 自動車による騒音は、エンジン、排気騒音とも格段に低減されてきているが、更なる低減の努力が求められているため、エンジン本体の改良、エンジン・ルームの遮へい、マフラの改良、タイヤ構造の改良等が行われている。
- 3. 地球温暖化の要因の1つであるCO₂に対して、燃料消費率の向上、クリーン・エネルギー車の開発、エコ・ドライブの励行等が行われている。代替フロンR134a（HFC-134）に対しては、使用済自動車解体時やカー・エアコン修理時のフロン大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）等が行われている。
- 4. 水質汚濁の要因である工場排水に対して、工場排水浄化槽の設置等が行われており、更にオイル類、エンジン冷却水等の回収処理が検討されている。粉じんの要因であるアスベスト粉じんに対しては、アスベスト材の使用撤廃等が行われた。

【2】自動車にかかわる環境問題と環境保全への取り組みに関する記述として、不適切なものは次のうちどれか。[R3.3/H27.3改]

- 1. 自動車による騒音は、エンジン、排気騒音とも格段に低減されてきているが、更なる低減の努力が求められている。また、生産工場からの騒音や臭気についても同様といえる。
- 2. pH4という強酸性雨によって、森林の立ち枯れ、湖沼の生物への影響に加えて、自動車の塗面を侵すなど、自動車にも被害が生じるため、自動車整備工場では工場排水浄化槽の設置が進んでいる。
- 3. 地球温暖化に対応するため、自動車の燃料消費率の向上、クリーン・エネルギー車の開発、エコ・ドライブの励行、使用済自動車解体時やカー・エアコン修理時のフロン大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）等が行われている。

4. 化石燃料の燃焼によって発生する物質の中で、特にNO_x、PM、光化学オキシダントなどは、大都市を中心に大気汚染の原因となって呼吸器障害などの原因となるため、排出ガスの浄化、工場排煙のクリーン化などが行われている。

【3】自動車にかかわる環境問題と環境保全への取り組みに関する記述として、適切なものは次のうちどれか。[H28.3改]

1. 化石燃料の燃焼によって発生する物質の中で、特にCO₂は大都市を中心に大気汚染の原因となって呼吸器障害等の原因となるため、排出ガスの浄化、工場排煙のクリーン化等が行われている。
2. アスベストは、この粉じんを吸い込むと健康を害するため、将来は全廃するよう代替材料の研究が進められている。
3. 地球温暖化に対応するため、使用済自動車解体時やカー・エアコン修理時のフロン大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）の導入の検討が行われている。
4. 産業活動に伴う各種廃棄物に含まれる有害物質等による土壌の汚濁や、水資源の汚濁等が問題になっているため、オイル類、エンジン冷却水等の回収処理、工場排水浄化槽の設置等が行われている。

正解 & ポイント解説

【1】正解…4

4. オイル類、エンジン冷却水等は、すでに回収処理が行われている。

【2】正解…2

2. 酸性雨への対応として、自動車では燃料の改良、排出ガスの浄化及び工場排煙のクリーン化などの対策がとられている。自動車整備工場における工場排水の浄化槽設置は、水質汚濁を防止するための対策である。

【3】正解…4

1. 大気汚染の原因となっているのは、窒素酸化物（NO_x）、粒子状物質（PM）、光化学オキシダントなど。CO₂は地球温暖化の原因となる温室効果ガスである。
2. アスベストは、既に使われていない。
3. フロンの大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）はすでに導入されている。

一般解説

■自動車にかかわる環境問題 [Ⅱ環境1章・以下同じ]

項目	環境問題	発生状況
地球規模の環境問題	地球温暖化	気象庁の温室効果予測検討部会では、今後100年間に世界の平均気温が2℃（低く見て1.5℃、高ければ6℃）上昇する可能性がある」と指摘している。
	オゾン層の破壊	カー・エアコンに使用されているR12（CFC-12）等のフロンが大気放出されることにより、成層圏にあるオゾン層が破壊され、有害な紫外線が増加し、皮膚ガンの増加等が懸念されている。
	酸性雨	pH4という強酸性雨が降るヨーロッパ、北アメリカの被害は特にひどく、森林の立ち枯れ、湖沼の生物への影響や、自動車の塗面を侵す等の問題が生じている。
局地的な環境問題	廃棄物公害	産業活動に伴う各種廃棄物や、使用済自動車を廃棄する際、廃棄物に含まれる有害物質等による土壌の汚濁や、水資源の汚濁等が問題になっている。
	大気汚染	化石燃料の燃焼によって発生する物質の中で、特にNOx、PM（粒子状物質）、光化学オキシダント等は、大都市を中心に大気汚染の原因になっており、呼吸器障害等の原因となっている。 ジーゼル黒煙やアスベストなどの粉じんを吸い込むことによる健康被害が発生している。
	感覚公害	自動車による騒音は、エンジンの、排気騒音とも格段に低減されてきているが、更なる低減の努力が求められている。また、生産工場からの騒音や臭気についても同様である。

■環境保全への取り組み

	環境問題	環境物質	取り組み内容
地球的問題	オゾン層の破壊	特定フロン R12（CFC-12）	使用済自動車解体時、カー・エアコン修理時のフロン大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）等
	地球温暖化	CO ₂	燃料消費率の向上、クリーン・エネルギー車の開発、エコ・ドライブの励行等
		代替フロン R134a（HFC-134）	使用済自動車解体時、カー・エアコン修理時のフロン大気放出の抑止（回収、再生及び破壊）等
	酸性雨	排出ガス、工場排煙	燃料の改良、排出ガスの浄化、及び工場排煙のクリーン化

第

7

章

法

令

1

車両法

1. 車両法の目的	295
2. 定義	296
3. 自動車の種別	297
4. 整備管理者	298
5. 整備命令	299
6. 自動車検査証	300
7. 特定整備事業	302
8. 特定整備の定義	306
9. 特定整備記録簿	308
10. 指定整備記録簿	309
11. 保安基準適合証	310

2

点検整備

1. 点検基準ごとの自動車の種別	311
2. 点検基準	313
3. 日常点検	316

1. 車体の大きさ等	317
2. 安定性	320
3. 走行装置	321
4. 車枠及び車体	322
5. 運転者席	323
6. 騒音防止装置	324
7. 走行用前照灯	326
8. すれ違い用前照灯	326
9. 前部霧灯	327
10. 昼間走行灯	328
11. 番号灯・尾灯	329
12. 制動灯	330
13. 補助制動灯	331
14. 後退灯	332
15. 車幅灯・方向指示器	335
16. その他の灯火等の制限	337
17. 警音器	338
18. 非常信号用具	339
19. 後写鏡	340

法令は出題範囲が広いため、弊社発刊の「法令教本 令和5年版」の併用をお勧めします。法令教本では法令ごとに過去5年分程度の試験問題（1級・2級・3級）を全て収録しています。令和5年版の定価は1,800円です。

1. 車両法

1 車両法の目的

【1】「道路運送車両法」の目的を定めた「道路運送車両法第1条」について、(イ)から(ハ)に当てはまるものとして、下の組み合わせのうち、適切なものは次のうちどれか。[R2.3]

この法律は、道路運送車両に関し、(イ)についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の(ロ)並びに整備についての技術の向上を図り、併せて自動車の整備(ハ)の健全な発達に資することにより、公共の福祉を増進することを目的とする。

- | | (イ) | (ロ) | (ハ) |
|--|-----|-----|-----|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. | 登録 | 保護 | 環境 |
| 2. | 所有権 | 保全 | 事業 |
| 3. | 登録 | 保護 | 事業 |
| 4. | 所有権 | 保全 | 環境 |

【2】「道路運送車両法」の目的を定めた「道路運送車両法第1条」について、(イ)から(ハ)に当てはまるものとして、下の組み合わせのうち、適切なものはどれか。[H28.3]

この法律は、道路運送車両に関し、所有権についての(イ)等を行い、並びに安全性の確保及び(ロ)の防止その他の環境の保全並びに整備についての技術の向上を図り、併せて自動車の整備事業の健全な発達に資することにより、公共の(ハ)を増進することを目的とする。

- | | (イ) | (ロ) | (ハ) |
|--|-----|-----|-----|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. | 証明 | 事故 | 利益 |
| 2. | 公証 | 公害 | 福祉 |
| 3. | 証明 | 事故 | 福利 |
| 4. | 照会 | 災害 | 福祉 |

正解 & ポイント解説

【1】正解…2 / 【2】正解…2

一般解説

■ 車両法の目的

- ① 車両法第1条（この法律の目的）。
- ② この法律は、道路運送車両に関し、**所有権**についての公証等を行い、並びに**安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備**についての技術の向上を図り、併せて自動車の**整備事業の健全な発達**に資することにより、**公共の福祉**を増進することを目的とする。

2 定義

【1】「道路運送車両法」に関する記述として、**適切なものは次のうちどれか。**

[H31.3]

1. この法律で「軽車両」とは、人力若しくは畜力により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの又はこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であって、政令で定めるものをいう。
2. この法律で「自動車」とは、国土交通省令で定める総排気量又は定格出力を有する原動機により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの又はこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具をいう。
3. この法律で「自動車」とは、原動機により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの又はこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であって、軽車両以外のものをいう。
4. この法律で「道路運送車両」とは、自動車及び原動機付自転車をいう。

正解 & ポイント解説

【1】正解…1

2. 「この法律で「自動車」とは、」⇒「この法律で「原動機付自転車」とは、」。
3. 「軽車両以外のものをいう」⇒「原動機付自転車以外のものをいう」。
4. 「道路運送車両」とは、自動車、原動機付自転車及び軽車両をいう。

一般解説

■ 定義

- ① 車両法第2条（定義）。
- ② この法律で「道路運送車両」とは、自動車、原動機付自転車及び軽車両をいう。
- ③ この法律で「自動車」とは、原動機により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの、またはこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であって、原動機付自転車以外のものをいう。
- ④ この法律で「原動機付自転車」とは、国土交通省令で定める総排気量または定格出力を有する原動機により陸上を移動させることを目的として製作した用具で、軌条若しくは架線を用いないもの、またはこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具をいう。
- ⑤ この法律で「軽車両」とは、人力若しくは畜力により陸上を移動させることを目的として製作した用具で軌条若しくは架線を用いないもの、またはこれにより牽引して陸上を移動させることを目的として製作した用具であって、政令で定めるものをいう。

3 自動車の種別

【1】「道路運送車両法」に照らし、次の各文の（イ）～（ハ）に当てはまる適切な数値を記入しなさい。〔編集部〕

1. 小型自動車の大きさは、長さ（イ）m以下、幅（ロ）m以下、高さ（ハ）m以下である。
2. 軽自動車の大きさは、長さ（イ）m以下、幅（ロ）m以下、高さ（ハ）m以下である。

正解 & ポイント解説

- 【1】正解 1. イ…4.7 ロ…1.7 ハ…2.0
2. イ…3.4 ロ…1.48 ハ…2.0

一般解説

■ 自動車の種別

- ① 車両法第3条（自動車の種別）。
- ② この法律に規定する普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車の別は、自動車の大きさ及び構造並びに原動機の種類及び総排気量又は定格出力を基準として国土交通省令で定める。

書籍の訂正について

本書の記載内容について正誤が発生した場合は、弊社ホームページに正誤情報を掲載しています。

株式会社公論出版 ホームページ

書籍サポート/訂正

URL : https://kouronpub.com/book_correction.html



本書籍に関するお問い合わせ

メール



問合せフォーム



FAX



FAX : 03-3837-5740

必要事項

- ・お客様の氏名とフリガナ
- ・FAX番号 (FAXの場合のみ)
- ・書籍名 ・該当ページ数 ・問合せ内容

※お問い合わせは、本書の内容に限ります。また、回答までにお時間をいただく場合がございます。ご了承ください。

自動車整備士 1級小型筆記 問題と解説 令和5年(2023年)版 下巻

■発行所 株式会社 公論出版
〒110-0005
東京都台東区上野3-1-8
TEL (販売) 03-3837-5745
(編集) 03-3837-5731

■定価 3,850円(税込) ※上下巻セットでの定価です

■送料 400円(税込) ※上下巻セットでの送料です

■発行日 令和5年(2023年)7月10日